

HSC024-13

会場:201A

時間:5月24日 12:00-12:15

中山間地域における防災訓練計画づくりにおけるリスクコミュニケーションー長岡市山古志地区虫亀・池谷・榎木集落の事例ー

Risk communication for making disaster response training plan in mountainous area - in case of Mushikame, Iketani and Na

須永 洋平^{1*}, 長坂 俊成¹, 李 泰榮¹, 坪川 博彰¹, 白田 裕一郎¹, 田口 仁¹, 岡田 真也¹

Yohei Sunaga^{1*}, Toshinari Nagasaka¹, Taiyoung Yi¹, Tsubokawa Hiroaki¹, Yuichiro Usuda¹, Hitoshi Taguchi¹, Okada Shinya¹

¹ 防災科学技術研究所

¹NIED

1. はじめに

不確実性を孕む自然災害のリスクを軽減するためには、多様な主体によるリスクの協治、すなわちリスクガバナンスの高度化が不可欠となる。筆者らの研究グループでは、リスクガバナンスの高度化にむけて、「防災マップづくり」、「防災ラジオドラマづくり」、「防災訓練計画づくりと実施」の3つのリスクコミュニケーション手法を開発・実践に取り組んでいる。本発表では、新潟県長岡市山古志地区の虫亀集落、池谷集落、榎木集落の3集落で実施した防災訓練計画づくりと実施の実証実験の事例について紹介する。

2. 防災訓練計画づくりと実施の手法

防災訓練計画づくりと実施は、災害時に起こりうる課題を整理し、課題の対応行動を練り、対応行動をもとに訓練計画を立案し、訓練を実施し、対応行動の有効性を検証する、という手順である。一連のプロセスで、地域の人材や社会資源などを活用しながら地域固有の課題解決策を検討し、解決策の効果を検証することで、リスクガバナンスが高度化されるように設計している。

3. 山古志3集落での実証実験

長岡市山古志地区は錦鯉の養殖が盛んな中山間地域で、2004年新潟県中越地震及び2007年新潟県中越沖地震の2回の震災を経験した地区である。各集落の規模は、虫亀集落は114世帯341人、池谷集落は17世帯34人、榎木集落は15世帯53人であり、榎木集落は震災による影響で池谷集落の近隣に集団移転している。そこで、虫亀集落と池谷・榎木集落とで2地区に分けて実証実験を行った。

2010年5月に3集落合同で実施説明会を行った後、同年6月から2011年1月にかけて、ワークショップ(各地区合計で3回)及び訓練を実施した。池谷・榎木集落では、榎木集落が新しく移転した場所に消火栓が1つしかないこと、消火栓につなぐホースが少ないこと、前2回の震災では火災が起きなかったことから、震災時に榎木集落の最も消火栓から遠い家から火災が発生する事態が最悪であると、課題が設定された。解決策として両集落からホースを集めることが検討され、実際に放水する訓練を実施した。その結果、水圧が低くなるために途中でポンプを中継するなどの対応が必要であることが分かった。一方、虫亀集落では、安否確認の方法を検討し、班長、部長、集落の執行部、山古志支所へと安否情報を伝達する訓練を実施した。訓練の制約上、主要メンバーが揃っている状況で訓練を行ったが、メンバーが揃いにくい平日昼間などでの対応の検討が今後の課題として挙げられた。

4. おわりに

今回の実証実験では、集落間での連携や安否確認の方法などが構築され、本手法がガバナンスの再編に効果があることが明らかとなった。全国各地で本手法を用いて取り組みができるよう、地域特性の異なる地区での実証実験及び手法のマニュアル化に取り組みたい。

キーワード: リスクコミュニケーション, リスクガバナンス, 防災訓練計画づくり, 長岡市山古志地区

Keywords: risk communication, risk governance, planning for disaster response training, Yamakoshi Area in Nagaoka City